

ブラウンマスタード栽培試験（1年目）

1. 目的

新規作物として導入を検討する

2. 実施場所

帯広市川西町 帯広市農業技術センターほ場

3. 栽培方法

(1) 供試品種 ブラウンマスタード(品種名不明)

(2) 供試面積 5m×40m(200 m²)

(3) 耕種概要

土壌区分	土性	前作	栽植密度	栽培方法	播種月日	収穫月日
沖積土	壤土	てん菜 堆肥試験跡	66 cm× 0.7~3.7 cm	条播	5/8 5/30	9/10 —

※千粒重 1.9g(キザキノナタネ ÷ 4.4g)

※5月8日：6畦、5月30日：3畦播種

施肥量(kg/10a)					
BB363	苦土重焼燐	窒素	リン酸	加里	苦土
70	15	9.1	10.2	9.1	3.3

4. 調査結果

播種月日	出芽期	抽苔始	開花始	成熟期	茎長(cm)	収量(kg/10a)
5/8	5/13	6/24	7/4	9/2	220	73
5/30	6/2	7/10	7/18	—	170	—

5. 生育概要

- ① 5月30日播種については、5月23日播種した3畦が、強風と過乾燥で種子が飛ばされ、出芽不良になったため再播したものである。
- ② 種子が非常に小さいため、過密に条播となり5月24日・5月28日・5月31日の3回にわたり間引きを行った。
- ③ 生育は著しく旺盛で、開花盛期(7月18日)には5月8日播種部分は草丈2mを突破する個体が生じた。
- ④ 主な病害虫として、生育初期にキスジノミハムシの食害多発、開花以降に菌核病による茎の折損が見られた。菌核病については、収量に大きく影響したと考える。

- ⑤ 8月8日～9日の降雨(79 mm)によって、5月8日播種部分は3割以上が倒伏した。
- ⑥ 倒伏の著しい部分は収穫が困難なため、収量調査に供した面積は、106 m²で、栽培面積の約67%となった。
- ⑦ 5月30日播種部分は、登熟が不良のため、調査を中止し8月末に鋤込みを行った。

6. 考察

- ① 海外文献を参考に施肥量・播種量を調整したが、生育は旺盛で、施肥量は大幅な減肥が必要と思われる。前作跡地の肥料効果を検討しなかったことは失敗であった。
- ② 収量は40～100 kg/10aを想定したが、73 kg/10aとなった。耐寒性が劣るとの情報で春まきを検討した結果だが、なたねと同様に秋まき栽培について確認が必要。
- ③ 実際栽培では、畦幅30 cm程度で播種が行われているらしく、畦幅と播種量の再検討が必要と思われる。
- ④ 収穫物の加工適性について、実需者からの情報収集が必要である。
- ⑤ 「イエローマスタード」「ブラウンマスタード」の2種類が実用されており、両系統について栽培情報を収集する必要がある。



7.1 開花直前



7.18 開花盛期



8.9 倒伏状況



8.27 成熟直前